

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

No.34

1.998.10.1

夢と現実

図書館はひらけごま

浜名優美

どうやら夢の中にいるようである。

いま私は自分の書斎兼物置部屋にいる。机の上にはインターネットに接続しているマッキントッシュのパワーブックがあり、ほかにコンピュータの周辺機器が並んでいる。

本を置くスペースを確保する必要があるが、机の上は狭い。だから書見台に本を立てかけておく。翻訳家としての仕事には百科事典が不可欠であり、しかも CD-ROM 版の百科事典はその多くが Windows 版のため、Windows 用のコンピュータも隣に置いてある。同時に二つのコンピュータを操りながら、毎日の仕事が進行している。コンピュータを導入したら紙がなくなるはずだったのにプリントアウトした紙が整理する暇もなく積み重ねられている。さっきから一枚の書類を探しているのに見つからない。もうここ数ヶ月片付けていないから部屋中に書類や本や雑誌があふれかえっていて、部屋の中を移動するのがやっとなのである。壁面にある書棚にはもはやこれ以上本を整理できる空間はない。仕方なく書棚の前に積んでおく。本は図書館のものを利用すればよいのだが、書き込みをしたり、付箋をつけたりするし、何よりも緊急に必要な本は手元に置いておきたい性分である。家人はあえて私の書斎に入って片付けなどはしない。何か別の基準に従って片付けられると、私にはどこを探したらいいかわからなくなるからである。整理上手になろうとして人並みに『超整理法』も買った。真似をして封筒に書類を片付け始めたが、今度

はその封筒を並べておくべき書棚に隙間がない。仕方なく封筒を床に置き始める。どう整理するか、どれだけ効率的に検索するかが私の課題である。

いわば世界規模の百科事典となったインターネットで、「ひらけごま」と呪文を唱えると瞬時に膨大な量の「ごま」に関する情報が得られるようになってきたのはうれしいが、あまりの情報量の大きさに呆然とすることもある。世界中の知の財産である図書のうち私が一生で読める量はたかが知れているのに、それでも私は知識人のつもりなのだ。電子テキストや CD-ROM ができて一冊の原書を求めて外国にまで出かけて行く必要がなくなり始めている。近い将来どこの図書館も電子化やネットワークが更に進行し、場所も時間も少なくて済むようになるはずである。でもコンピュータにはアレキサンドリアの図書館焼失にも似たクラッシュという危険がつねにつきまとっている。

2000年には瀬戸キャンパスに新たに2学部が開設される予定であり、図書館も出来る。自宅に居ながら南山の二つの図書館ばかりでなく、世界中の図書館の検索ができて、本の中身まで読めるようになれば私の書斎も広々としたものになって昼寝のスペースができるのに、と思いつつ、でもそんなことになったら出版社も著者も困るかもしれないなどと考えている私は、実はコンピュータの前でうたた寝していたのであった。

(Masami Hamana : 南山大学図書館長)

人物・人名に関する調査

はじめのいっぽ

「アウンサンスーチーとは、どんな人か。」「堺屋太一の経歴は？」ある人物について調査する場合、①その人物がどのような人物なのか、②その人物の著作はあるか、③その人物について書かれた文献はあるか、といった内容の調査が考えられます。今回の資料紹介では、調査の第一歩とも言える①その人物がどのような人物なのか、について調査するための基本的な資料を紹介します。書名に続いて当館の請求番号を表示してあります。

1

読みや綴り

～これを知らなきゃ始まらない～

大佛次郎＝ダイブツジロウ？ キュリー夫人＝Curry？ 人名事典を引こうにも、読み方や綴りが全く分からなくては話になりません。

『人名よみかた辞典』 (R/281/118)

明治以降の人物の実名から、難読の姓・名、読み誤りやすい姓・名を採録。部首画数順に姓または名を配列し、読み仮名、識別の為に身分、職業などを添えている。

『西洋人名よみかた辞典』 (R/280/204)

アフリカ・中近東・インドも含む、西洋人名約6万人の人名を収録し、原綴、カナ表記のどちらからでもひける。生没年月日と簡単な解説付き。

2

その人物はどんな人物なのか～

現在活躍中の人物について調べる場合

日本

『人事興信録』 (R/281/19-7)

『日本紳士録』 (R/281/219)

会社社長、国会議員、中央官庁の課長以上と

いうような、社会的地位を基準に各界から収録対象を選び、肩書き、学歴、経歴、家族、趣味などを掲載。日本居住の外国要人も含む。

『新訂現代日本人名録98』

(R/281/220/1998)

『日本紳士録』や『人事興信録』には収録されにくい、フリーで活躍する評論家や、著作は多数あるが役職がない若手の研究者なども収録されている。オンライン版あり(有料)。

『新現代日本執筆者大事典』

(R/281/101-2)

著作・文筆活動を職業とする者だけでなく、対談・講演など出版物を通じて発言を行っている人物も対象としている。ペンネームや芸名などの別名からも引ける。略歴、勤務先、所属学会等とともに、主な著作物を収録し、また、その人物に関する研究・参考文献等があれば項末に挙げてある。類似の資料に『著作権台帳』(R/281/14)がある。こちらは故人の著作権継承者も含めた、著作権者のリストである。

『研究者・研究課題総覧』 (R/281/110)

大学、短大、高専、文部省関係研究機関等に所属する研究者について、生年月日、所属機関、出身校、所属学会、研究課題、主な著作等を記載。大まかな研究分野別に引くことができ、人名索引もついている。オンライン版あり(有料)。

このほかにも、分野別に多様な人名録がある。たとえば、政治・行政関係では、『職員録』(大蔵省印刷局)(R/281/34)に中央官庁、都道府県、公共企業体等の諸機関名(部局名)とその担当者が掲載され、『国会便覧』(R/314.1/7)には国会議員の経歴・秘書名・選挙結果などが収録されている。また、ビジネス関係においては、『ダイヤモンド会社職員録 全上場会社版・非上場会社版』(R/336.41/100, R/336.41/100-1)や、『役員四季報』(R/335.4/385)に各種企業の主要人物がリストアップされている。

海外

一般に、現在生存している人物の人名録を、英語では“who's who”と呼びます。世界中で様々な分野の who's who が出版されています。

『The International who's who』

(R/280/23)

『The Who's who in the world』

(R/280/31)

『International...』はイギリス、『...in the world』はアメリカで出版されている人名録で、ともに現在生存中の各国の著名人を幅広い分野から収録。現在の職業、生年月日、家族構成、経歴などを掲載。解説を短くするため、多数の略語を使用しているため、巻頭の略語表を参照しながら読むと良い。

『Who's who in America』

(R/285/111) (R/285A/28 アメリカ研究センター)

現在生存している米国の著名人を中心に収録。原則として本人への質問票に基づいて経歴事項を確認している。死亡すると、『Who was who in America』(R/285/110 当館所蔵は1897年から1976年まで)に移される。

これら以外にも、国別では、who's who の元祖と言われる『The Who's who』—英国人中心—(R/280/36)、『Who's who in France』(R/283/104)、『Who's who in Australia』(R/287G/8 オーストラリア研究センター)、『Wer ist wer?』—ドイツ—(R/283/105)、『Who's who in

Spain』(R/283/206 当館所蔵は1987年まで)などがある。

また、分野別に収録対象を絞ったものに、『Who's who in American law』(R/322.5/231)、『Who's who in European politics』(R/312.3H/19 ヨーロッパ研究センター)、『中国最高指導者 Who's who』(R/312.2/490/A)などがある。一度 GEMMA の「書名」に who's who と入力して検索してみてください。少し変わったところでは、次のような資料もあり、最新の情報が得られる。

『New York Times

biographical services』(Z/280/N68)

新聞 New York Times に掲載された人物評伝記事の中から主要な記事を抜粋してまとめた「切り抜き誌」。新聞に掲載された形のまま収録されているので、写真も見る事ができる。月刊。毎月人名索引がつき、年間累積索引もある。

3 歴史上の人物・物故者なら...

日本

『日本人名大事典』(R/281/103)

1978年までに故人となった日本人名約5万6千名を収録。日本の人名事典としては、収録人名数の多さという点で最も規模の大きい事典。略伝的な解説に、各巻300点ほどの肖像や筆跡を添える。項目末に典拠文献を加えているものもある。

『新潮日本人名辞典』(R/281/231)

日本の歴史に名を刻まれた人物1万8千名を収録。政治・社会・宗教・文学・芸能など各ジャンルを網羅し、現代に近づくほど人物の選定に厚みをもたせるよう配慮している。また、「お雇い外国人」や、日本と関わりの深い外国人も多数収録し、さらには、神話、歌舞伎などの架空・伝承人物まで収録している。巻末に、画数から引ける難読人名索引や人物名言集などもある。

『人物レファレンス事典 現代編』

(R/281/120)

人名事典その他の事典37点113冊に搭載されている日本人を対象として、人名の見出しのもとに簡単な説明(生没年、職業、出生地など)を付し、その典拠文献としての事典名およびその記述量を示している。つまり、人名から、どの事典にその人物に関する記述があるか探するための事典。同種の人名検索に『西洋人物レファレンス事典』『東洋人物レファレンス事典』(ともに当館未所蔵)がある。

海外.....

『岩波西洋人名辞典』(R/280/110)

西洋を欧米に限定せず、中近東、アフリカ、オセアニア、インドも含め、中国や日本との関係において関わりの深い西洋人に重点を置く。カタカナ人名見出しのもとに配列され、欧文と漢字の索引がある。

『岩波=ケンブリッジ世界人名辞典』

(R/280/221)

『The Cambridge biographical encyclopedia』の翻訳版。人名を50音順に配列し直し、国名を補足している。各項は、生没年、学歴、職歴、業績に関する正確な情報を記述するとともに、批評も含めた、読んで興味深いコンパクトな伝記になっている。

『20世紀西洋人名事典』(R/280/215)

20世紀に顕著な業績を残した西洋人の人名事典。欧米人だけでなく、アジア・アフリカ・中近東など漢字文化圏を除く世界各国・地域の人物を収録対象とし、活動分野も政治・経済から芸術、映画俳優、スポーツ選手まで幅を広げて収録。

『Dictionary of national biography』

(R/283/34)

顕著な功績を残した英国人約3万7千名について、専門の伝記作家が書いた伝記を事典形式に編集したもの。参考文献が添えられている。略称DNB。1885年から1901年にかけて発行さ

れた初版63巻に1901年発行の補遺3巻を加えたものを、22巻に再編成している。その後、10年ごとに補遺が発行されている。本編と1993年までに発行された補遺全てを収録したCD-ROM版(CM/283/1)も当館で所蔵している。

『Dictionary of American biography』(R/285/22)

現在のアメリカ合衆国となっている地域で顕著な功績を残した人物約1万3600名の詳細な伝記を事典形式に編集したもの。略称DAB。各項末に参考文献を添えている。補遺版にその後の著名な物故者を追加収録している。

4

番外編

～こんな「人」たちも。

『日本架空伝承人名事典』(R/281/210)

『架空人名辞典日本編』(R/903/214)

『架空人名辞典欧米編』(R/903/214)

『欧米文芸登場人物事典』(R/903/229)

かぐや姫から清水次郎長、イエス様からポパイに至るまで、その人物が実在したかどうかに関わらず、民衆や様々な作者の想像力の中で生み出されたり、あるいは変形加工されるなどしてその名が伝わってきている人物に関する事典。

今回紹介した資料以外にも、図書館1階参考図書コーナー、R/280～R/289付近に多数の人名辞典があります。質問、資料選びは、レファレンスカウンターにいつでもご相談下さい。

〈参考文献〉

大串夏身著

『チャート式情報・文献アクセスガイド』青弓社 1992
長澤雅男著

『情報と文献の探索』第3版 丸善 1994

Sheehy, Eugene P.ed.

"Guide to reference books" 10th ed.

American Library Association 1986

(Hanako Shinji : 閲覧・参考係 進士華子)

分かるダザイ、分からぬダザイ

自著『太宰 治』(岩波新書 1998.5刊)について

細 谷 博

太宰治といえば、どんなイメージがわくか——没後50年に当たる今年、そんな話題を、すでにいくつかの場所で書いてきました。

みなさんの中にも、イメージとして、「暗いダザイ」というものが強くあるのではないかと思います。そのためにあまり読む気がしない、という人も多いことでしょう。が、この機会にぜひ、「明るいダザイ」も分かってほしい。「暗いダザイ」だけしか思い浮かばない人は、さっそく傑作『お伽草紙』を手にとってみて下さい。

太宰作品には、いわば暗い面と明るい面のどちらもあり、それらのせめぎ合いや入れ替わりの変化が独特の味わいを出しています。しかし、それは決して難解な、一部文学青年向けの世界ではない。誰でも、リズムカルな本文に耳を傾けていれば、その暗いようで明るい、孤独なようで開かれた、どこか「有頂天になり易い」語りの調子に動かされ、快く運ばれて行くような感じを味わうことができます。

ただし、刻々と動き変容するその語りの実質をつかみ分析するのは、そう簡単ではありません。多くの研究者が試みてきましたが、必ずしも充分ではない。最近では若手研究者たちが、太宰「前期」のテキスト本文にかじりついて、さらなる考察を行おうとしています。

また、一方では、「暗いダザイ」のシンボルともいべき『人間失格』が、新潮文庫だけでも、何と現在に至るまで530万部も売れ、さらに毎年10万部ずつ出ている、という事実があります。一体、どんな人々が買うのか。読まれるか否かは別として、毎年『人間失格』の“所持者”が10万人ずつ増えていく、というのはいささか考えさせられる光景です。それはたぶん、いまだに多くの青年たちが、この社会のただ中で「人と人との間」(漱石『行人』)に戸惑い、不安や恐れをいだき、生きあぐんでいる証拠だとも思えるのです。

「孤独な青年たち」は、後から後からあらわれ、しばし後には順々にオトナになっていくことでしょう。そうした多くの若者のいづくダザイイメージが、没後半世紀をへて今後さらにどのような方向に向かうのか、私には分かりません。しかし、中学で「走れメロス」を読み、高校で『人間失格』にふれた(あるいは敬遠した)青年たちが、やがて大学生となり、オトナとなってふたたび読み直すときのありさまは、多少なりと見聞きもし、想像することができます。

拙著『太宰治』は、そうした自他を見る目をもったオトナの読者に向けて、書かれています。彼らに対し、太宰作品はより親しみをもった呼びかけの〈声〉となり、真剣さとおかしさ、有頂天と深刻とが共存する世界となってあらわれるでしょう。そこでは、『人間失格』でさえ、すぐれておかしみをふくんだ人間悲喜劇と見えてくるのではないかと私は考えます。

暗いようで明るい、乱暴なようでやさしい、なげやりなようでひたむきな、太宰の代表作の一つひとつについて、私は、自分に分かるいくつかのことを、他の多くの人々に向けて書いてみました。それは同時に、いままでの太宰作品の読まれ方、そして解釈や研究の方向性に対して、強い見直しを迫るものともなっています。

太宰文学の真価が問われるのは、まさにこれからだと思います。それは、ことばの不思議さ、つよさとよわさ、美しさといかがわしさ、おかしみとあわれのまざりあった感じを如実にあらわし、また、一語一語を語りかけてくる〈声〉の感触をいきいきと体現したすぐれた文章として、さらに分かりやすく、われわれの前に立ちあらわれてくるだろう、と私は思うのです。

(Hiroshi Hosoya: 文学部 教授)
感想宛先 :hosoya@ic.nanzan-u.ac.jp

資料紹介

Routledge Encyclopedia of Philosophy

Edited by Edward Craig

[世界哲学大事典]

編集主幹の Edward Craig (ケンブリッジ大学教授) をはじめ、第一級の専門家 32 人がテーマ別に編集にあたり、世界 36 ヶ国、1500 人の著者が最新の研究成果を基に寄稿している。アルファベット順に 2000 項目 (500-15,000 語, 1-20 頁) 以上が、文献情報とともに収録されている。第 10 巻は総合索引の巻に当てられ、人名、概念、論題などを総計 600 万語の中から引き出せる。あらゆる時代の西洋哲学のみならず、中国、日本、インド、アラビア、ユダヤ哲学、アフリカやラテン・アメリカの哲学まで幅広く網羅している。また、同一内容の CD-ROM 版では、相互参照の機能が充実し、関連項目への移動が容易であるなど、CD-ROM ならではの使い方ができる。利用者の好みに合わせて冊子と CD-ROM を使い分けてみてはどうだろう。

英語の大型哲学事典としては“The Encyclopedia of Philosophy” by Paul Edwards, Macmillan (Free Press, 1967) から 30 年ぶりの刊行で、本事典もこの Paul Edwards を編集顧問に迎えている。哲学研究者や学生にとって重要な参考図書であるほか、宗教、心理学、言語、文学、法律、政治、歴史、古典研究、文化研究、科学、数学などの分野にも応用できる資料である。

[請求番号: R/103/216/v.1-10(冊子) R/103/216(CD-ROM)]

こうぶんそうたいかこしょもく
弘文荘待賈古書目

CD-ROM版 Windows版

弘文荘待賈古書目は、古書籍商である弘文荘の故反町茂雄氏が、昭和 8 年の第 1 号から昭和 59 年の第 50 号まで、顧客へ送り続けられた古典籍・貴重書の販売目録である。「日本の自筆本」「日本の古文書」「敬愛書図録」などの特集号もあり、和書を始め洋書の稀書も多く扱った。収録された各書目には詳細な解説文がつけられ、これ自体学術資料として使用できることを目指して刊行された。

この CD-ROM は、「弘文荘待賈古書目」および他店との合同で出品した折の目録を含めた全 77 冊分を収録している。収録書目は約 2 万点 (含・各目録の重複掲載分)、約 10,400 頁を原文のままモノクロ・カラー画像で収録している。書名、人的関連、宛名、原本種別やジャンル、掲載目録名、発行年等での検索が可能である。

また、CD-ROM 版の刊行に伴い改訂された「総索引」、弘文荘で扱った古典籍の中から 850 余点を選び、内容や紙質、装丁、保存状況、売値を写真とともに紹介した「善本図録」が冊子として付随している。

[請求番号: 未定 ('98 図書館基本資料購入費により購入予定)]

(Akira Tsuchiya: 図書受入係 土屋 玲)

「読み手責任」について

石田昌久

眼を閉じると思い出す。好きだった I 先生が、悲しいかな病気で本学をお辞めになる前のこと、初めて自著を世に問われた感想を伺った。「いやあ、間違っただこと書いたんじゃないかって、それが心配でね」。先生は真顔で謙虚に言われた。おおらかでユーモアたっぷりに語られるそのお人柄からして意外なほど慎重だった。前向きで屈託のない答えを想定していたから正直言ってたじろいだ。次いで少しばかり自分が恥ずかしくなって、研究者の執筆時の心持ちに思いを馳せた。

世の中の役に立つとは限らないが、いつかはそうなるであろうことを信じて書く。「人に解ってもらいたい、社会をこう変えたい」と祈りつつ書く。あるいは「書かずにおれな、書かずに死ねるか」の一念で書く。結果的に正にも負にも受け取れるような資料をスルメを噛むように読みに読んで持論を展開し、「推す」か「敲く」かで夜を徹し、全身全霊を傾けて句読点を打つ。こうして生まれた作品と私たちはどう向きあっているのだろう。内容を客観的に批判するのは勿論大切なことだし、難解な文章を「これは下手糞なんだ」と気楽に考えることも時には必要だろう。いつも重々しく肩肘張って読んではつまらない。ただし、曲解せずに読みたい。虚心坦懐に読みたい。可能なら、著者の思考過程に沿って読み込んでみたい。せめてもの「読み手責任」を果たしたい。そう考えたら何か込み上げてくるものがあった。

気がつけば夜8時。あの昼間の図書館の喧騒はどこへやら。非常灯にのみ照らし出される書架に向かって私は思わず頭を下げた。

(Masahisa Ishida : 閲覧・参考係)

■こんな本、読んでみませんか■

『大地』(全4冊) パール・バック作/小野寺 健次

加藤 貴文

19~20世紀にかけて、古い中国が新しい国家に生まれ変わろうとする激動の時代に、“大地に生きた”王家三代にわたる人々の時代記である。“生きる”がテーマである。この中に、時間と場所を超えた人間の原型が、日常、土と共存する庶民の幸福にあることを著者は追究する。優れた文学者の持つ普遍性と、現実との共通点が多い為、世界のベストセラーとなり、著者はピューリッツァ賞を、後にノーベル文学賞を受賞した。

(Takafumi Kato : 経済学部 学生)

南山大学図書館 秋の企画展のお知らせ

恋うた・恋文・恋ものがたり

南山大学図書館では今年度の秋、「恋うた・恋文・恋ものがたり」というタイトルで企画展を開催します。作家・画家・音楽家は、どんなラブレターを書いたのしょう？ 一片の「ラブレター」がその人の生涯のどんな場面で生まれたのが... 交友関係や時代背景、彼（彼女）らの作品などにもスポットをあてながら、様々な「恋のかたち」を追ってみます。

みなさんの知的好奇心をくすぐる図書館の利用法をアピールできればと思っています。ぜひ、覗いてみてください。

会場：図書館1階 ブラウジングコーナー

期日：1998年10月26日（月）～11月7日（土）

※11月1日（日）、3日（祝）は図書館は休館となりますが、企画展のみ入場できます。

'98

秋期・図書館利用講習会のお知らせ

春に引き続き、図書館の上手な使い方や資料の探し方などを説明する利用講習会を開催します。これからやってくるレポートで一步リードしたい人、卒業論文でもう一步踏み込んだ情報を手に入れたい人など、奮ってお申し込みください！！

【期日】10～11月の平日のうち、御希望の日。詳細は申込時に相談。

【コース】★初級…ツアー方式で図書館内の資料の配置や利用方法を案内。

☆中級…卒業論文やレポートの作成などに役立つ文献・資料の探し方の解説。

【所要時間】約60分

【申込方法】図書館1階レファレンス・カウンターにて。受講希望日の1週間前まで受付。

◎役に立つ情報が満載。受けて良かったと思うこと請け合いデス!!◎

《編集後記》

使い込むほどにアジが出る、そんな図書館でありたいです。

（タイトルデザイン：加藤富美）

南山大学図書館報 デュナミス No.34 1998.10.1発行

<http://www.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/>

南山大学図書館 広報委員会
編集委員：濱島、進士、祖父江

〒466-8673
名古屋市昭和区山里町18
Tel: 052 (832) 3707
Fax(G3):052 (833) 6986